

▽主催：復興みなさん会、宮城大学地域連携センター
▽後援：すばらしい歌津をつくる協議会
※記載内容に関するお問い合わせ： 及川清孝(090-6227-0608)

南三陸町では住居の高台移転に加え、河川堤防や防潮堤など、様々な分野の復興事業が進められています。南三陸の歴史・風土に根ざした復興を成し遂げるためには、住民が正確な情報を持ち、考え、議論する場が必要であると私たちは考えました。

11月8日(木)に開催した復興てらこ屋 第1回『河川堤防と防潮堤について考えよう』では、宮城県気仙沼土木事務所の方にお越しいただき、現在進められている伊里前川の堤防整備計画について話題提供を頂いた後、参加者同士で意見交換を行い、代表的な疑問についてお答え頂きました。その内容についてご報告します。

1. 伊里前川の堤防整備計画について（話題提供）

宮城県気仙沼土木事務所の方にお越し頂き、伊里前川の堤防整備計画についてご説明頂きました。



- ・堤防は海岸の防潮堤同様8.7mの高さで建設を予定している。
- ・遡上シミュレーションにより、途中から6.9mとなる。
- ・国道45号線、JR気仙沼線、三陸自動車道が堤防の上を跨ぐ形になる。



3. 質問とその回答

意見交換を通じて挙げられた質問から8点について、話題提供頂いた気仙沼土木事務所の方にご回答頂きました。

①堤防の上を車や人は通れるのか？

⇒管理用道路となる。川は原則自由使用だが、転落防止柵などは付かない。防災の観点から階段は一定間隔の設置を考えている。堤防への道路は、橋との関係も考慮し町と調整する。

②8.7mは決定なのか、どのくらいの高さか？

⇒8.7mの高さの目印設定は国道45号線沿いに計画中である。8.7mの高さは、決定と考えて欲しい。基本的に高さを変える方針はない。住民の意向＝意見書などがあった場合も基本的には受け付けられない。但し、堤防の後ろに住宅や道路など守るものがあるかなどを含め検討される。

③自然環境は変わらないのか？

⇒水の流れ幅は残す方針、河床はいじらないように配慮している。シロウオなど、生態系に関する影響は、即答できない。

④堤防をコンクリートにせず、土ではダメなのか？

⇒土堤だが、表面をコンクリートで覆う国の基準で設計している。コンクリートを打ちっぱなしか、ブロック(コストが高い)にするかの検討中である。

⑤川と国道45号線で町が分断されるのではないのか？

⇒伊里前～払川間は、三陸道・県道・堤防上の道などで交通を確保したい。堤防上で国道45号線下を通行できるかどうかは、国の直轄事業との関係を調整中である。

⑥橋は元の場所にかかるのか？

⇒災害復旧で橋を架ける計画はある。しかし、町の再建計画次第で、元の位置にかかるか決まる。それに応じて堤防に登る道などを付ける。

⑦堤防の後背地は嵩上げするのか？

⇒現在県として公共土木施設の災害復旧事業が行われている。この事業では、後背地の嵩上げ(盛り土)ができない。現在の国のメニューには後背地の嵩上げをする制度がない。防災集団移転事業で出た残土を活用するなどの対応を町で検討していると思う。

⑧具体的なスケジュールは？

⇒土地の境界の確定作業を土地所有者の立会のもと実施している。その後、用地取得の作業に入る。全体スケジュールは、平成27年度までに全部の災害復旧事業完了を目標としている。現時点では、平成25年初めに用地取得に関する説明会を行い、工事開始は早ければ、6月議会後に発注・着工というのが最も早いスケジュールだろう。これは、志津川を除く、他の河川でも同様のスケジュールを想定している。



2. 参加した住民同士での意見交換

ご参加頂いた住民の皆さんで、河川堤防や防潮堤計画について、意見交換を行いました。「率直な感想」「わからないこと・聞きたいこと」「その他ご意見・ご要望」について、様々な意見が挙げられました。その全てを記載します。

【堤防の高さについて】

- 8.7mの高さは決定なのか？
- 高さを「もっと高く」「もっと低く」の意見は聞かないのか？
- 小泉地区(本吉)の堤防の高さはどの程度なのか？
- 8.7mってどのくらいの高さなのか？ □8.7mの目印は付けるのか？

【堤防の形状について】

- 堤防の上は車が走れるのか？ □車は通行できるのか？
- 堤防を人は通行できるのか？ □堤防の上を人は歩けるのか？
- 堤防には登り降りできるのか？ □堤防に階段はつくるのか？
- 堤防の角度は変えられないのか？ □角度を少し変えて欲しい。
- 全部コンクリートの堤防でないとダメなのか？ 木を植えられるように土ではダメなのか？
- 桜の木などを植えられるように土の堤防にしてほしい。
- 自分たちの故郷にコンクリートの塊はいらない。

【津波への対策について】

- 川がカーブしている所で波の遡上に変化するのではないのか？
- 上流の集落が水を被るようになるのではないのか？
- 堤防で押さえられた津波は川の上流まで達するのではないのか？
- この計画の高さの堤防で津波は防げるのか？
- 川を流れる水と津波が川の途中でぶつかるのではないのか？
- 津波の遡上を防ぐ為に川の角度を変えられないのか？
- 津波の流れを抑えるためにS字の川にしてはどうか？

【守るべきものについて】

- 住民は高台に移転するのが必要ない。
- 財産を守るためならやはり必要だ。

【堤防周辺の土地について】

- 海が見えるように、堤防の後背地も8.7m嵩上げするのか？
- 後背地を盛り土で嵩上げるのであれば海が見える。
- 堤防の後背地の後ろの地区は嵩上げしないのか？
- 国道そばの土地の嵩上げはどうなるのか？
- 盛り土は3m程度が限界との話も聞いている。
- 河川堤防と国道45号線間の土地はどうなるのか？
- 堤防の後背に水がたまる。
- 低い土地に水が貯まってしまうのではないのか？
- 三陸道の脇に県道を作ってほしい。
- 払川の道路を高くできないか？ □JR線の高さはどうなるのか？
- 川を山側に移して土地を商店など再利用してはどうか？
- サイクリングコースなどを作ってほしい。

【工事について】

- 伊里前橋付近を現在工事中のものは何の工事なのか？
- 工事が始まるまでは自分の土地を使っても良いのか？
- 元の土地を倉庫に使うのをあきらめないといけないのか？
- 土地が堤防にかかると買上げは県が行うのか、町が行うのか？
- 工事中どのように行き来するのか？
- 自分の土地が完璧になくなってしまふのはさみしい。
- いつから工事が始まるのか？
- 工事の着工～完了のスケジュールはどうなっているのか？
- スピード感をもって進めてほしい。
- この工事に使える予算は確定しているのか？

【情報提供や進め方について】

- 失うものをきちんと評価してかた進めるべきだ。
- どのようなものができるのか立体模型を作ってほしい。
- 住民の意見を一度も聞かないで決まったことと言うのも民主主義に反する。
- 宮城県WEBサイトがわかりにくい。



【生活するための道路への影響】

- 橋がなくなるのか？ □寄木橋と塩尻橋はどうなる？
- 寄木地区へ行くための橋はかかるのか？
- お寺前から国道45号に歩いて行けるのか？
- 伊里前から第一防潮堤まで行くには迂回しないと行けないのか？
- 伊里前漁港の岸壁へのルートはどうなるのか？
- 漁師は自分の船にどのように行くのか？
- 西光寺へはどのように行くのか？ □墓場に行くのも遠く苦勞する。
- 西光寺に葬列を組んで行けなくなる。
- お寺やお墓の場所は重要だが、孤立してしまふ。
- 雨が降った際に国道の道に水が貯まらないのか不安である。
- 県道から45号線にはどのように乗るのか？
- 中在、上沢、石泉、払川の人が伊里前商店街に行けなくなる。
- 伊里前と上沢地区が分断されてしまふ。
- 西光寺と高区の人孤立するのではないのか？
- 移動が遠回りになり不便である。
- 堤防に沿って国道にアクセスできる道路が必要である。
- 川や道路で町を切り離してはだめだ。

【自然と人の関わりについて】

- 堤防になると川遊びできる場所はあるのか？
- 子供の遊び場はどうなるのか？ □川の宮みを見て子供は育っている。
- 子供たちが遊べるような場所を作してほしい。
- 海岸から学びを得られるような場所を残したい。
- 川に降りられなくなってしまう。 □昔からの川の流れを大切にしたい。
- 老後の憩いの場がなくなる。 □釣りをやる場所がなくなる。
- 人と川とのつながりを大切にすべからう。
- 人の命を守るために自然を犠牲にしても仕方がない。
- 国道45号線から海は見えないのか？
- 堤防を作らないことで守ることもあるのではないのか？
- 潮が引くのが見えなくなり、再度津波が来た時により危険だ。
- 復旧の為に別の物を作ること、大切なものを失ってしまう。

【自然環境への影響について】

- 生態系が変わるのではないのか？ □生態系が変わってしまう。
- 自然と共生する防災のあり方はないのか？
- 川をコンクリートで覆うと川が汚れるのではないのか？
- ウナギがいなくなってしまうのではないのか？
- 漁ができなくなったらどうするのか？
- 水産業に影響が出た場合に補償はするのか？
- 堤防建設により潮目は変わらないのか？
- 生態系の調査を行うのか？
- 鮎・しろうお・ウナギがいなくなるのではないのか？
- しろうお漁ができなくなる。白魚はどうなるのか？
- 堤防に水がよどむ部分を作って魚の稚魚を育てたい。

様々な、たくさんのご意見が出ました。
住民自身が正しい情報を基に、よく考え、議論することで、多くの住民が納得できるこれからの南三陸・歌津・伊里前が、できていくのではないのでしょうか。